せたがやeカレッジ

「魅惑の仏教美術の世界」

～知れば知るほど仏像が見たくなる講座～

第3回　仏像の見方 - 九品仏の仏像を見る -

駒澤大学 村松哲文 准教授

１、浄土信仰

阿弥陀に対する信仰で平安時代に流行する。それは当時流行っていた末法思想による。

末法＝仏滅後２千年に釈迦の修行も悟りも消えてしまうという。
永承２年（1052）がそれにあたると信じられていた。

⇒仏教公伝から500年目の年

人々の末法への不安が、最終的に阿弥陀浄土に往生することであるという考えにつながる。

２、九品浄土の具現化「九体阿弥陀」

阿弥陀浄土には九つの世界があるとされた。

上品・・・上生：上品上生	中品・・・上生：中品上生	下品・・・上生：下品上生
・・・中生：上品中生	・・・中生：中品中生	・・・中生：中品下生
・・・下生：上品下生	・・・下生：中品下生	・・・下生：下品下生

阿弥陀信仰が流行した平安時代に、九品浄土を造るお寺が出現する。
浄瑠璃寺では、境内全体を阿弥陀浄土に見立て、九体の阿弥陀を本尊とするお堂を造った。

九体阿弥陀・・・法成寺無量寿院の九体阿弥陀が初例
寛仁四年（1020）に藤原道長が発願した。
→院政期に流行する。文献で30例程確認される。

現存する九体阿弥陀：京都・浄瑠璃寺　大分・臼杵磨崖仏ホキ2号群

世田谷の「浄真寺―九品仏―」もその一つ（図1～10）。
上品・中品・下品の三堂あり、三体ずつ阿弥陀如来が安置されている。

図1

図2

図3

図4

図5

図6

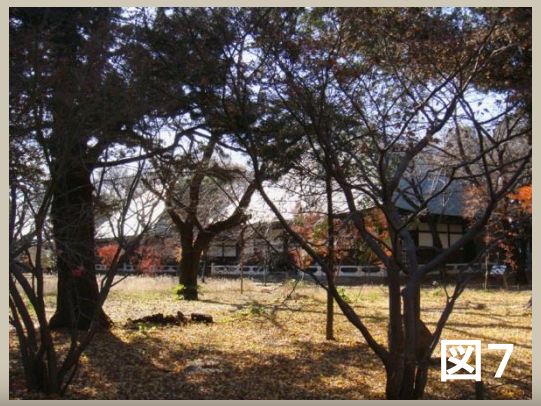


図7

図8

図9

浄真寺は、もともと吉良氏の奥沢城であった（図11）。それが延宝6年（1678年）になってから、

珂碩（かせき）が同地に浄真寺を開山した。江戸時代にも九体阿弥陀に対する信仰があったと推測される。

本寺にももともと池があったので、境内全体として阿弥陀浄土を表現していたものと思われる。

図10

3、さまざまな阿弥陀如来の表現

① 五劫阿弥陀（図11）・・・作例：東大寺勧進堂・五劫阿弥陀如来坐像

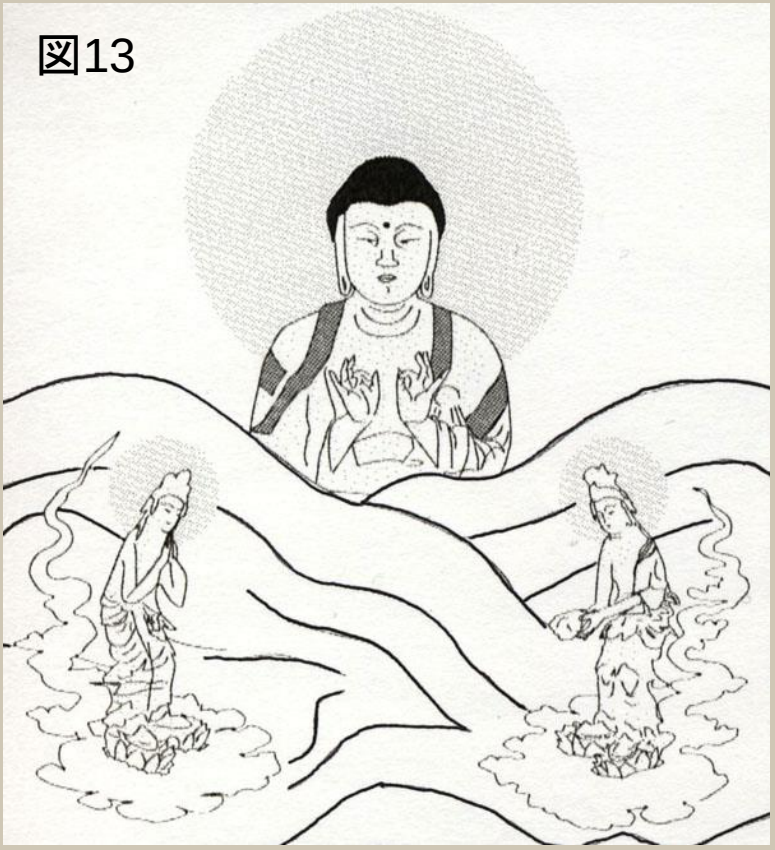
② みかえり阿弥陀（図12）・・・作例：京都・永観堂・阿弥陀如来立像

③ 山越阿弥陀（図13）・・・作例：京都国立博物館蔵・山越阿弥陀図

図11

図12

図13



４、まとめ

仏像の種類＝如来、菩薩、明王、天
悟った肩の特徴＝三十二相→仏像の制作に影響する
衣の着方＝通肩、偏袒右肩、中国式服制

仏像の様式の変遷：天平時代に写実様式が完成する
飛鳥時代から天平時代：中国や朝鮮半島の影響
平安時代に日本独自の様式ができる

仏像の素材：木造（一木造と寄木造）、金銅造、乾漆造（脱活乾漆と木心乾漆）
塑造、石造など

浄真寺・九品仏の仏像：九体阿弥陀